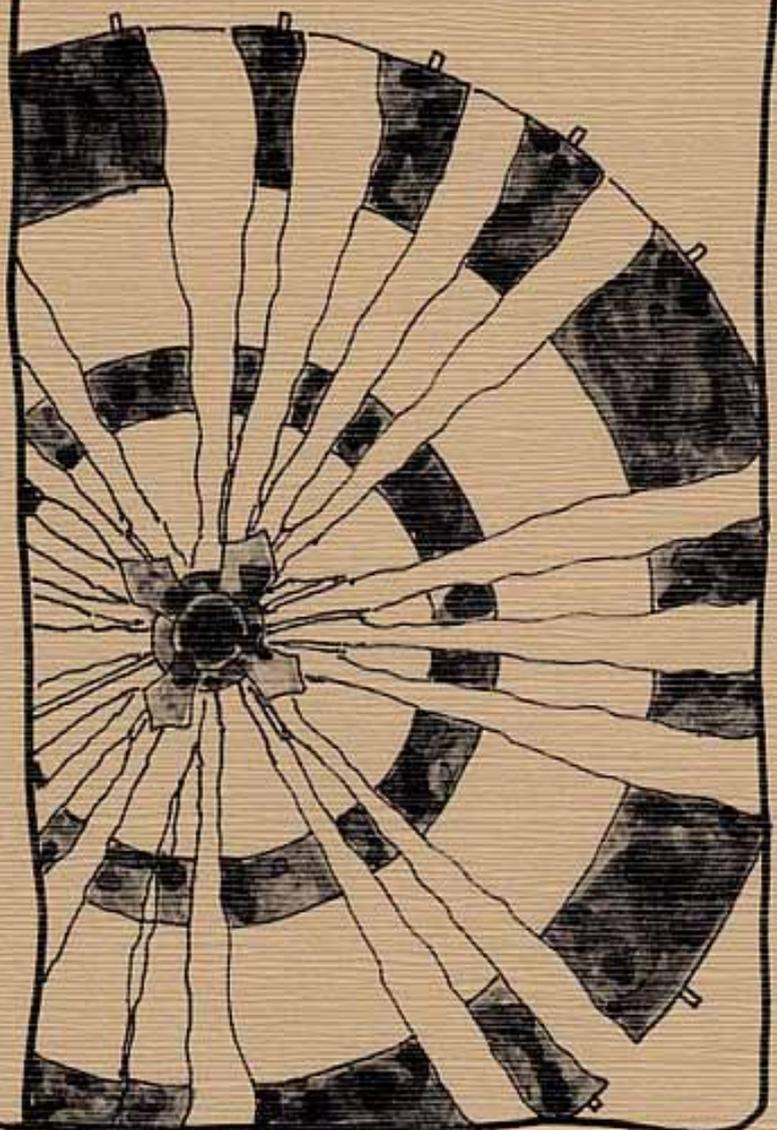


やぶれ傘



一一七号

二〇二〇年十二月

浮寝鳥波の高さの見えてをり	根橋宏次
金網のフェンスは続く雁わたし	大島英昭
日向からきて日向へと冬の蠅	きくちきみえ
冬もしアルマニヤツクの瓶が空	藤井美晴
茶の花のほろりとこぼれ落ちにけり	廣瀬雅男
明日着る喪服を吊りて海鼠喰ふ	青谷小枝
風炉名残済んで炉の灰検むる	瀬島酒望
拝殿の紙垂に風来る神の留守	渡邊孝彦
秋晴れやけふの眼鏡はよく見える	丑久保 勲
黄葉のすすむ庭もうすぐ雨か	安藤久美子
初しぐれ鴉は変な鳴き声で	小山よる
目の暮をふらついてある秋の蝶	白石正躬
银杏黄葉くぐりて小さき美術館	秋山信行
猪鬃を積んだ軽トラ着きにけり	天野美登里
青みかんしきりに髪を撫でる癖	有賀昌子

抄 集 句 傘 紀 大 崎

ウサギどこ芋名月に目を凝らす	松村光典
芋の露こぼさぬ程の風渡る	武藤節子
富士と月残して釣瓶落しかな	村田 武
手で回す鉛筆削り冬隣り	山本久枝
枯葉降る庭の箒目その上に	湯本正友
手に包むホットワインを飲む夜寒	吉田幸恵
八十路かな今年の紅葉確と見て	岩藤礼子
能登の塩振つて仕上げるむかご飯	奥田温子
赤まんまいつもの犬と会ふところ	神山市実
梨を剥く畑仕事のお茶請けに	木村瑞枝
大根の葉のゆさゆさとエコ袋	倉澤節子
ラジオ聴きながらの長湯秋深む	小巻若菜
小鳥来る仏足石に雨たまり	中島和子
竹箒とめてしばしの涼新た	貫井照子
コスモスの丘より眺め太平洋	萩原久代

ばら一輪古き館に咲きゐたる
金木犀雀の宿となりにけり
せせらぎの音爽やかな竜田川
松手入れ空がいよいよ広く見え
仏壇にほのかな香り栗御飯
木漏れ日に輝く泉秋深し
奥多摩の溪流訪ね秋惜しむ

箕田健夫

武藤節子

秋彼岸大黒さんが良く喋る
芋の露こぼさぬ程の風渡る
話しつつ話し聞きつつ栗ごはん
冬隣り予防注射の針光り
秋風の磨き上げたるかに夜空
ゆれながら枯れ切つてゆく猫じやらし
银杏ちる陽のひとひらとなりて散る

丈五ほど高さも高き酔芙蓉
秋晴や退院の人いそいそと
富士と月残して釣瓶落しかな
図書館の庭の檜の薄紅葉
幼稚園バス着く山茶花の近く
低木の街路樹覆ふ落葉かな
干し布団を裏返す人昼の月

村田武

森美佐子

鶏頭の花の硬さよ触れてみて
目印の角曲がりゆく秋の暮
人気なき庭埋めぬる草の絮
B S の字幕映画を見る夜長
在宅を確かめ届く今年米
鈴生りの柿の木鴉群がつて
柿啜へかからす時へ帰りゆく

灼くる日の父の命日水供へ
 小鳥来る明日着る服はハンガーに
 花野への歩み速めてゐたりけり
 葱畑の畝の窪みに雨の跡
 手で回す鉛筆削り冬隣り
 松手入れ家主の職は造園師
 落葉降る落葉の上に降りつもり

山本久枝

川の梅擬き秋日射しの底に魚の影
 蔓栗を選び拾ふ子蹴飛ばす子
 雲を分けて銀漢せまりくる如し
 荻の花に埋もれ庚申様の塚へ
 枯葉降る庭の箒目その上に

湯本正友

菊人形口をへの字にひん曲げて
 句会終へ月夜の道を帰りけり
 参道に線香かをる秋彼岸
 クレーン伸びて工事再開秋薊
 炊飯器にキノコ飯有る妻の留守
 娘一家は遂に新居へ鉦たたき
 畦道に石墓ひとつ曼殊沙華

渴本実

雨が来て色の深まる秋なすび
 七輪に丸き金網初さんま
 何事もなく暮れ行きて蚯蚓鳴く
 窯出しの貫入の音秋涼し
 秋夕焼草で拭きとる鍬の土
 手に包むホットワインを飲む夜寒
 柿簾すき間すき間を風通り

吉田幸恵

遠かなかな向かひの家に灯の点る
単線の線路真つすぐ鱚雲
秋暑し現場に残るヘルメット
長椅子に並んで仰ぐ後の月
孫一人二人と寝入りゆく夜長
二人居や四人分炊く今年米
街灯の切れぎれ灯る夜寒かな

浅嶋肇

安齋正蔵

柿剥くや偶数割りはいとやすし
袖口に入る秋風ありにけり
宅配が三階に来る秋の暮
吊し柿暖簾のごとく軒下に
神迎ふ留守のあやまち口にせず
大根引く腕腰足に気合入れ
音もなく落葉一枚肩に落ち

石塚清文

木道はくねくね曲がり松虫草
伏せ鉢にとぐる巻きぬる穴惑ひ
虫の声土間の流しの辺りから
鶴鴿が横断歩道わたりゆく
作付けの話にはづみ蝗炒る
秋惜しむ昔ここにはは映画館
蒸籠の湯気は真つ白冬近し

石原健二

這ふやうに畦をひらひら秋の蝶
空深し銀杏落ちて臭ひ立ち
雨降つて肩落とすかに棒稲架木
忍び来る夕の暗さ秋の雨
蚯蚓鳴く灯のなき家の庭の奥
雲間より光ひと筋後の月の
川をゆく細き流れの冬めきて

蚯蚓鳴くカーブミラーの下あたり
銭湯の高窓開いてうろこ雲
望月や口に含みし明石焼き
四万^ま十^ん川^とに沿うて猪垣ある畑
野良着きて妻は大根抜きにゆく
トイレットペーパーふつと切る夜寒
今宵からマフラー巻いてゆくことに

稲田延子

集落に残る一軒秋海棠
楓紅葉の下を抜ければ道祖神
マイカーに降りくる紅葉だんご喰ふ
桜紅葉寺の座敷にキュービック
ハート型の菊を浮かべて手水鉢
秋の日の寺の柱に刀傷
紅葉山ペットボトルにご神水

岩藤礼子

「病院前」てふバス停の秋桜
丹沢の山なみが見え秋深し
秋彼岸過ぎて静かに訃の到る
八十路かな今年の紅葉確と見て
風呂吹にしゃうゆつくり胡麻播つて
冬暖かキュキュと鳴る靴履いた子と
紅葉且つ散るヨガのポーズの猫がゐて

江口恵子

新蕎麦の幟が揺れてゐたりけり
行間の太き日記を買ひにけり
そぞろ寒夜更けの電話鳴りわたる
天高し音乾きあゐるキーボード
小気味良き食感残る菊膾
それぞれの旨み引き立て茸汁
蹲に落葉の二三枚が浮き

枝みや子

潮の香も波風も無く瀬戸の秋
風くれば桔梗の揺る喫茶店
天高く朝より鳥の鳴きやまず
晩秋の上野の広場人疎ら
秋風に吹かれ乳呑児瞬きを
早朝のマラソンの人落葉踏み
昼の陽のなかで水鳥鳴きにけり

奥田温子

木の実散る校舎裏門閉ぢし
明日の夜は雨とふ予報十三夜
ぶつちぎりの馬の白い歯天高し
秋の日の猫座りゐる屋根の端
水引の花を揺らして猫が来る
百日紅はいまだ満開角の家
能登の塩振つて仕上げるむかご飯

神山市実

赤まんまいつもの犬と会ふところ
頂いたゴーヤをツナとさつと和え
柿紅葉脚立に朝の光さし
鱗雲物干し竿の向こう側
柿実りネットすつぽり被さる
新調のカーテン揺らす秋の風
団栗を踏んだかまはじく音

亀岡睦子

夜に映えるシャコバサボテン満開に
草の花多摩霊園に御影石
満月や形を変へて雲動く
先立ちし子の好物の新走り
良く晴れて幼稚園児の運動会
晴るる日の南天の実の赤きかな
山茶花の零れるほどに咲きにけり

木村瑞枝

梨を剥く畑仕事のお茶請けに
曲がりをる秋茄子ひとつ残されて
芝居はね銀座通りをゆく良夜
ハモニカの間える夕べ蚯蚓鳴く
間引菜に百円を置く直売所
夫とゐて旅のさ中の里祭
恩師宅辞して夜寒の中仙道

倉澤節子

秋うららしナモン香るアップルテイー
みみず鳴くペットボトルの水飲めば
くりかへしラ・カンパネラを聴く夜長
文庫本束ねしままに冬に入る
白壁に十一月の日がさして
大根の葉のゆさゆさとエゴ袋
立冬の一番星でありにけり

黒澤次郎

南瓜畑雄花ばかりが咲きさかる
オオタデを写す川面に鷺の影
朝方に裏に來て鳴く法師蟬
古びたる塀にまたがる酔芙蓉
秋の空休んでゐたる耕耘機
かすかなる秋風のなか夕日落つ
二三株とり残しある新生姜

小池一司

金木犀明るく光る潦
店先に青き木通の並びをり
おでん種いつもの店で買ひにけり
新米のまだ暖かき握り飯
外を見て坐りぬる猫秋の暮
柚子の実の明るき色の増してをり
飯桐の実のぶらぶらと寺の庭

◇1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	5日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	5日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	6日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	8日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	16日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	23日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	23日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	29日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	1日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	2日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	2日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島英昭
	5日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	5日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	20日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	21日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	大宮公園の梅園	丑久保 勲
	27日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬雅男
	27日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは1月29日(金)です。

2月21日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所 JR大宮駅・中央改札前。

吟行地は大宮公園の第2公園梅園。

句会場はさいたま市民会館505号室。

◎連絡先

秋山 信行	☎ 048-874-0555	藤井美晴	☎ 0422-55-2733
大島英昭	☎ 048-592-5041	WEP編集室	☎ 03-5368-1870
廣瀬雅男	☎ 048-443-7522	丑久保 勲	☎ 048-853-3856